

熊本県立南稜高等学校 令和元年度(2019年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
<p>『学校理念』 球磨の地に「人材の泉を掘ろう」                  『教育スローガン』 人間力を高め 一隅を照らす人づくり 南稜魂で世界へ羽ばたけ                  教育とは流水に文字を書くようにはかない業である。しかし、それを岩壁に刻むような真剣さで取り組まなければならない。教育の基盤はあくまでも、教師と生徒との信頼関係である。教師が誠意と熱意を持って教育に真剣に打ち込むときに、生徒の心は動かされ、魂を呼びさまし、そこに信頼感が生まれる。                  また、地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。                  『教育理念』 時を守り 場を清め 礼を正す</p>

2 本年度の重点目標
<p>① 募集定員の確保                  ホームページやマスコミを活用した特色ある本校学習活動の周知で定員確保を図る。                  ② わかる授業の実践                  南稜スタンダードによる授業の工夫と改善を積み重ね、「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を心がけるとともに学習習慣の定着を図る。                  ③ 自尊感情や自己肯定感の涵養                  学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などをとおして、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲とコミュニケーション能力の向上を図る。                  ④ 基本的生活習慣の確立                  個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携をとるとともに、生徒との信頼関係を築く。また、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的生活習慣の確立を図る。                  ⑤ 教育相談体制の充実                  中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、定期的な面談の実施、自治体や関係機関との連携強化に取り組む。また、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起こさない雰囲気づくりやいじめ通報アプリの活用等に取り組み、いじめ件数0件を目指す。                  ⑥ 働き方改革の推進                  勤務時間を意識した働き方の推進や会議や研修、行事の精選、職場環境の改善等に取り組む。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	募集定員の確保	入学者数の確保	○全学科、定員80%以上の受検者確保と入学者数170人以上	○本校生による南稜応援隊を発足させPR活動を推進させる ○ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知する ○中学生保護者向け学校説明会を充実させる ○体験入学を充実させる	B	○南稜応援隊の活動を通して本校をPRすることができた。 ○HP1日平均閲覧数約1,000件、マスコミ掲載約100件(12月末)であった。 ○中学生保護者向け学校説明会は今年度も対話型で行い満足度は96%であった。 ○受験者数では、全体では昨年を下回ったが学科によっては定員をオーバーするなどばらつきが見られた。
	働き方改革の推進	働き方改革の実践	○時間外勤務の縮減(前年度比超過勤務平均時間の10%削減)	○主任主事等を中心に各部署における働き方改革を推進する ○朝会や会議の精選、見直しを行う ○県の部活動指針に沿った部活動を推進する	B	○月平均時間外勤務時間は60時間を越える状況である。また、80時間を超える職員が平均16名で、多い月は20名を越えた。 ○働き方改革として①朝会・運営委員会の削減②時間外勤務の状況の見える化③1/4残業デーの実施④削減ポスターの掲示⑤推進アンケートの実施⑥グリーンデーでの整理整頓⑦共有フォルダを活用した効率向上⑧アンケートの簡便化に取り組むことができた。
学力向上	わかる授業の実践	授業改善	○生徒の80%以上が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進	○公開授業週間や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る ○職員への南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る	A	○「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」と回答した生徒が約80%である。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。

				機会を設ける		
	学習習慣	欠席防止	○ 8 クラスで年間出席率 98%以上	○ 出欠状況の各部との共有を図る ○ 担任や学年団を中心とした家庭と連携した登校支援を行う	B	○ 16 クラス中 2 クラスが 99%以上を達成し、98%以上は 3 クラスであり、学校全体としては 96.9%。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。
キャリア教育(進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	○ 進学・就職とも、志望先への合格・内定 100%	○ 課外授業や模試等を活用した判断材料の収集と情報提供を促進させる ○ 希望調査と面談による適正な選択を支援する	A	○ 進路決定に至る過程で当初の希望を変更した生徒もいたが、昨年度に引き続き引き、志望先への合格・内定 100%を達成できた。
	定着指導	就業の継続	○ 早期離職率 25%以下	○ 3 学年部と連携した事業所訪問の機会を利用し、定着指導を行う ○ 社会接続支援として 3 年生に早期離職防止のための講話を行う	A	○ 早期離職率は 18.3%である。職員、キャリアサポーターの事業所訪問による定着指導が早期離職防止に効果的である。今後は関係機関とよりいっそう連携を図りながら、内定後の社会接続支援の取組を充実させていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	自転車 2 重ロック率の向上	○ 全学年の 2 重ロック率 80%以上	○ 交通委員や室長による呼びかけを点検前に行う ○ 2 重ロックができていない生徒へ個別指導を行う	D	○ 2 ロック率が現在までで平均 30%で良くない状況にある。交通委員を活用した取組がうまく実施できていない。個別指導等にも取り組めていない。
	自尊感情や自己肯定感の涵養	自尊感情の向上	○ 「自分のことが大切な存在を思う」と答える生徒 60%以上	○ 全校集会での自尊感情向上講話や三部会による啓発活動を推進する ○ アンケートを年 2 回実施し、結果を周知する	C	○ 三部会による啓発活動は、年度当初のみになってしまい継続した活動にはならなかった。 ○ 今年度は 3 学期のみの実施となり 2 回の実施には至らなかった。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	中途退学の防止	○ 中途退学等の進路変更者 9 人以下	○ 週 1 回の生徒支援会議で、学習面・生活面において支援が必要な生徒を取り上げ、必要に応じて SC、SSW を活用するなど支援体制を充実させる	C	○ SC、SSW を活用しながら支援に努めてきたが、2 学期末時点での転退学者数が既に 9 人に達し、昨年度より増える結果となった。
	教育相談体制の充実	個別の教育支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ	○ 診断がある生徒の個別の教育支援計画、指導計画の作成率および教科担当者への周知率 100%	○ SC や特別支援学校による訪問指導事業を活用し、個別の教育支援計画と指導計画を作成し、教科担当者へ周知し活用を図る	B	○ 診断がある生徒の個別の教育支援計画、指導計画については全員分作成することができたが、活用については十分とは言えない状況である。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	相手の気持ちを考える心の育成	○ 相手の気持ちを考えた言動ができる	○ 生徒会等を中心にしたいじめ防止啓発活動を実施する ○ SOS や自分の気持ちを伝える力を定着させる	A	○ 生徒総会でのいじめ防止宣言や心のアンケート等での早期発見に取り組めたが、解決に時間を要する場面が見られた。 ○ 研究授業をとおして SOS や自分の気持ちを伝える活動に取り組めた。今後は自己表現力の向上が必要である。
	「SOS の出し方に関する教育」研究指定事業における研究指定校	豊かな学校生活と未来のための、困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルの向上	○ 自己肯定感と他者理解の向上による人間性豊かな集団づくり ○ 困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルの向上	○ 南稜スタンダードによる分かる授業を展開する ○ 実習や学校行事を通して自己肯定感を醸成する ○ ピア・サポートによる支え合う集団づくりを推進する ○ 生徒会、室長・副室長を中心にしたいじめを考える取組を実施する	A	○ 南稜スタンダードによる授業をとおして、生徒達の理解度が昨年度より若干改善された。 ○ 実習や学校行事において、生徒に役割を持たせることで自己有用感の向上を図ったが、結果に表れなかった。 ○ 研究発表会において、生徒が主体となって取り組んだことに対して参観者より高い評価を受けた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会の開催	各種マニュアルの作成及び見直し、基本協定の締結 防災教育の実施	○ 防災マニュアル見直し及び避難所運営マニュアル作成とあさぎり町との基本協定の締結 ○ 各学科における防災教育の推進及び避難訓練の実施	○ 関係機関と連携し、防災マニュアルの見直しと避難所運営マニュアルの作成を行う ○ あさぎり町と基本協定を締結する ○ 各学科における防災教育を推進させるとともにサポートを行う ○ 関係機関と連携した避難訓練を実施する	B	○ あさぎり町と基本協定の締結が出来た。 ○ 各教科においても防災教育に関する取り組みができた。 ○ 避難訓練を実施し、適切な処理と防災の啓発教育が出来た。 ○ 各マニュアルの見直しが不十分だった。

	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒 60%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活動を推進する ○各学科で開放講座を実施する	B	○たくさんの生徒が地域活性化に関する活動に参加したが、目標達成までには至らなかった。 ○各学科・コースの特色を生かした開放講座が実施できた。
特色ある学校作り	専門教育の充実	南陵スタンダード農場版の実践	○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒 80%以上	○基礎、基本を押さえた授業を実践する ○ポートフォリオ評価を行う	B	○79%が専門教科を積極的に学び理解を深めていると回答したが、昨年度よりも下回っており今後の課題である。 ○ポートフォリオ評価は、全科目での実施までには至らなかった。
	地域の素材や人材の活用	地域資源の活用	○「郷土に誇りを持っている」生徒 80%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率 100%	○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する	A	○郷土に誇りを持っている生徒 86%で郷土愛は醸成されている。 ○農特産物等地域資源を活用した学習活動は 100%であった。今後は地域と連携したプロジェクト学習の充実が求められる。

4 学校関係者評価	
<p>○ 評価された点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも生徒たちを育てていただきありがたい。心から応援している。</li> <li>・生徒たちは学校生活の中でたくさんの経験をさせている。とても充実した高校生活を送れているように感じる。</li> <li>・熱心にご指導いただき感謝している。</li> <li>・防災マニュアルは、経験された方々の意見が反映されていてとても良い。</li> </ul> <p>○ 課題として指摘された点や提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遣いや整容など高校生に相応しい生徒であって欲しい。</li> <li>・挨拶ができる子供が多くなればもっと活気あふれる素晴らしい学校になると思う。</li> <li>・いろんな子供たちをかかえて先生方も大変だろうと思うが、もっと厳しく指導していただきたい。</li> <li>・学校外での行動や態度があまり良くない。学校に頼る指導ではなく、保護者や地域の方々の協力も必要であるが、学校での指導方法ももう少し考えていただきたい。</li> <li>・携帯をしながらの登下校は他校より規則が甘いような気がする。</li> <li>・子供一人一人に対して向き合って欲しい。</li> <li>・生徒指導は大事だが、言い方がきつい先生がいる。</li> <li>・課外などで学力の向上をお願いしたい。強制も必要でないか。</li> <li>・体育大会で倒れる生徒が多かったように思われた。開催時期の検討が必要ではないか。また、救護テントでの保護者ボランティアも必要ではないか。</li> <li>・行事の時に使う駐車場が分かりづらい。</li> <li>・お知らせや学校行事などの通知が遅い。</li> <li>・建物が古いのは仕方ないがトイレだけは明るい雰囲気を作り替えられたらと感じた。</li> <li>・正門前の横断歩道が消えかかっており夕方は薄暗く照明もない所から急に横断されて驚いた。安全確保のために照明機器の設置を早急をお願いしたい。</li> <li>・学校アンケートにおいて同じ内容の質問に職員、生徒、保護者がそれぞれの立場で回答する質問を設けてはどうか。比較することで改善策につながるかもしれない。</li> <li>・普段の教育活動の様子や改善傾向を見ると評価が厳しいように思われる。</li> <li>・寮教育を通して見ていると、しっかりと自分の考えを持ってきている生徒が多いように感じる。しかし、研修寮の期間が短すぎるように感じる。</li> </ul>	

5 総合評価	
<p>本年度の学校教育目標から5つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。</p> <p>① 募集定員の確保 南陵応援隊を発足させ出身中学校におけるPR活動を展開させたほかホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知することができた。ホームページの1日平均閲覧数は約1,000件と前年度を上回り、マスコミ掲載件数も110件を上回った。中学生保護者向け学校説明会は、今年度も対話型で行い満足度は96%と好評価だった。</p> <p>② わかる授業の実践 公開授業週間などにおいて各教科や学科で南陵スタンダードの浸透と定着、そして授業を振り返る機会を設けた。「南陵スタンダードに合った分かる授業が展開されている」と回答した職員は88.7%であり、南陵スタンダードを意識した授業が展開されている。その結果、生徒からは「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」80.0%、「授業中の指示や説明はわかりやすい」85.2%、「板書は丁寧で読みやすい」88.5%、「わかるまで教えてくれる」83.4%と高い評価を得た。また、保護者からも「南陵高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」90.8%、「教科・科目は、生徒の興味・関心や進路希望をかなえるものになっている」89.6%と高い評価を得た。 今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南陵スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。</p> <p>③ 自尊感情や自己肯定感の涵養 本校生は自尊感情や自己肯定感が低い傾向にあり、分かる授業の展開や各種行事をとおして自尊感情や自己肯定感の涵養に努めたが結果には表れなかった。生徒のアンケートでは、「南陵高校の体育大会や文化祭等の学校行事は、楽しく充実している。」82.34%、「授業や実習を通して将来への夢や希望を持つことができている。」71.3%、「高校生活をとおして成長していることが実感できている。」73.5%と高い評価であったが、「南陵高校には学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組む生徒が多い。」では63.5%と低い傾向が見られた。また保護者のアンケートでも、「教科・科目は、生徒の興味・関心や進路希望をか</p>	

なえるものになっている」89.9%、「部活動や学校行事等へ積極的に取り組む生徒が多い」81.7%「体育大会や文化祭等の学校行事は、楽しく充実している」91.5%と高い傾向が見られた。

しかし、三部会による啓発活動や自尊感情アンケート実施が予定どおりできていない。

④ 基本的生活習慣の確立

社会のルールやマナーを尊重し充実した学校生活を送るという観点や専門高校として社会に巣立っていく生徒一人一人の規範意識を高めるという観点から指導に取り組んだ。また、生徒たちの社会的自立を育むとともに大きな問題行動に発展させないためにも、小さい問題行動から曖昧にすることなく毅然とした粘り強い態度で指導するように心がけている。

本校の校則等に対する理解は、生徒が81.9%、保護者が89.9%と概ね高かった。しかし、生徒アンケートで「先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる。」73.0%、「学校は、安全かつ安心して生活できる環境が整っている。」71.7%、保護者アンケートで「子どもの悩みや心配事を、学校・先生と共有できている。」64.4%、「学校は、落ち着いたよい学校だと思う。」78.8%とやや低い傾向が見られた。また、職員アンケートでも「生活指導は、全職員の共通理解のもと組織的に共通実践されている」が60.3%と低かった。今年度の学校評価での基本的生活習慣の確立では自転車2重ロック率の向上を挙げたが達成率30%と非常に低い状況であった。次年度は、組織的な指導体制を見直し、基本的生活習慣の定着に取り組んでいきたい。

⑤ 教育相談体制の充実

これまで教育相談部に位置づけていたいじめ対策を生徒指導部に移し、教育相談部では多様化する生徒への組織的な教育相談や適応指導における担任をサポートをメインに取り組んだ。「SOSの出し方に関する教育」研究指定校として、生徒自身に自己を見つめさせ、自己を表現する力や自己肯定感を高めさせるとともに、生徒達がお互いに気付いて、寄り添って、受け止めて、信頼する大人に伝えることができる人間性豊かな集団作りや登校指導や全校集会を通した規範意識の醸成にも取り組んだ。研究発表会では、生徒が主体となって取り組んだことに対して参観者より高い評価を受けた。

診断がある生徒の個別の教育支援計画、指導計画については全員分作成することができたが、活用については十分とは言えない状況である。

⑥ 働き方改革の推進

月平均時間外勤務時間は60時間を越える状況である。また、80時間を超える職員が平均16名で、多い月は20名を越えた。働き方改革として、朝会・運営委員会の削減、時間外勤務の状況の見える化、ノー残業デーの実施、削減ポスターの掲示、推進アンケートの実施、グリーンデーの実施、共有フォルダを活用した効率向上、アンケートの簡便化などに取り組むことができた。職員アンケートで「働き方改革が計画的に推進されている」は45.2%と低い結果となった。次年度は、これまでの取組の成果と課題や国の動向等を踏まえ、本校の実態に応じた業務改善及び教職員の意識改革を進めていく。

なお、自己評価総括表でC・D評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

次に挙げる本年度、十分には達成できなかった項目などの課題改善に重点的に取り組みたい。

① 募集定員の確保

志願者数は目標を達成したが、定員数の確保には至っていない。ホームページやマスコミをさらに活用し、本校の特色ある学習活動を周知し、定員確保に努めていく。

② 自己有用感の涵養

学校行事や部活動、南校スタンダードによる授業展開、また、異年齢集団との活動を通して自己有用感を醸成し、見識ある行動のとれる生徒を育成する。

③ 基本的生活習慣の確立

日常のきめ細かな指導・対話と家庭連絡を通して基本的生活習慣を確立し、欠席・遅刻や問題行動を防止する。

④ 働き方改革の推進

勤務時間を意識した働き方の推進や会議や研修、行事の精選、職場環境の改善等に取り組む、働き方改革を推進していく。